

お客様の想いを かたちに



建物に求められる機能は高度化、多様化しています。「リジェネラティブ・ワークス®」「総合力から生まれるデザイン」「魅力再生®」などに持続的に取り組みながら、建築の新たな価値創造にチャレンジしています。

OSAKA HIRAISHIN KOGYO KOBE OFFICE

大阪避雷針工業神戸営業所

スクラップ&ビルドから、ストック&リジェネレートへ



リジェネラティブ・ワークス®

当社は1971年の「設計に緑を」から始まり、2004年に「サステナブル・ワークス®」へと発展させた環境への取り組みを、さらに進化させています。気候変動の加速に対応するため、従来の環境負荷軽減から地球環境と社会課題の解決に向けたポジティブな影響を生み出す「リジェネラティブ(再活性)」な考え方へと2026年に転換しました。竹中グループは「リジェネラティブ・ワークス®」として、脱炭素・資源循環・自然共生を調和させ、地球の恵みを回復・再生してウェルビーイングな未来の実現を目指します。

大阪避雷針工業神戸営業所

避雷設備を設計・施工する企業の営業所。当初は建替え予定だった築35年のRC造4階建ての建物を、設計者からの提案によって、新築では成し得ない価値創出と、躯体寿命が尽きるその先までをデザインの射程として再生させました。

不要部分を減築して建物を大幅に軽量化したことにより、既存躯体からの跳出しだけで木と鉄骨による一体増築を実現しました。そして、新たに付加する部材は「経年美化」する素材を選定し、ボルトやビスによる接合を基本としたうえで、それを視覚的に見えるようデザインしました。これによりユーザー自身が容易に建築をメンテナンスできるようになります。時とともに建築への愛着が増していき、長く大切に建築をつかってもらう契機になるとともに、将来の解体・分解・部材の再利用も見据えた計画としています。

[詳細はこちら](#)

[紹介動画](#)



つなぐ減築

4階の社宅と3階スラブを減築し、軽くなった分、既存躯体から大庇を吊り下げようとして、基礎を設けずに1階の床を増築しました。この操作と高断熱化により、BEI=0.40という高い環境性能を獲得。加えて、解体+新築した場合に比べて、工期は半分となり、CO₂排出量・廃棄物量ともに約7割減しました。



北側大庇と新設階段

これまで壁で囲まれたコアの中にあった階段を、北側の増築部につくりなおしました。階段を上り下りすると、大庇の隙間から外構の植栽と街路樹がつながって見え、ふとした移動の時間に自然の変化が感じられるようになりました。



ひらく増築

3階にあった事務所を2階に降ると、近隣住宅との見合いが発生します。そこで、大庇で執務空間を覆い、視線と直達日射を制御することで、ブラインドを閉める必要のない開放的な空間を実現しました。さらに、トップライトを開けると、庇下に新設した引き違い窓から気持ちよい風が入り、中間階は空調なしで快適に運用できます。



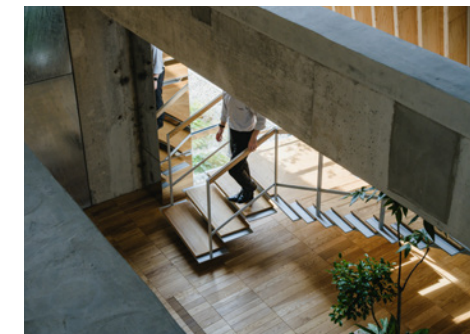
倉庫をひらき、仕事をみせる

従来、建主にとって倉庫は隠す場所でしたが、ルーバー状のガラス間仕切りにすることで、エントランスからは倉庫が見えないように配慮しつつ、共創スペースからは見えるようにしました。この間仕切りは、避雷針を保管するラックも兼ねており、解体や分解もできるようにデザインしました。



仕事に寄り添う大庇

営業所には避雷設備の搬入のため、トラックなどの車両が出入りします。荷捌きを天候に寄らず快適に行うために、大庇で作業場を覆いました。1階倉庫の開口は既存の2倍に拡大し、長物である避雷針の搬入の作業効率を高めました。



大事に手入れをし、時とともに価値を増す

付加する材料には、厚みや色味にムラのある「経年美化」する材料を選定。そして、手入れや交換、解体しやすいディテールでそれらを取り付けました。築35年のこの建物は、大事に手入れを続けることで、時とともに価値が増し、愛着がわき、躯体寿命が尽きるまで使われる建築となります。

総合力から生まれるデザイン



北東外観：プロムナードに面して半屋外広場「TRY SQUARE」を設けるとともに公園に対してヴォリュームの軸を振ることで、多様な人々を施設内に引き込む

立命館大学 大阪いばらきキャンパス H棟

共創を生み出す新たなキャンパスモデル

本計画は、2015年に開設したキャンパス(OIC)への2024年映像学部・研究科、情報理工学部・研究科の移転に伴う新棟計画です。学園ビジョン「R2030 挑戦をもっと自由に」を具現化するため、新棟を起点としたOICのさらなる進化を目指し、キャンパスそのものをあらゆる人々の挑戦の場と捉え「TRY FIELD」というコンセプトを掲げました。公園と一体化した塀のないキャンパスの特性を活かし、建物内まで地域社会を引き込み、研究活動を地域に開くことで、共創や社会課題の解決を実現するキャンパスを目指しました。

[詳細はこちら](#)



Innovation Lounge:
日常的な上下移動による研究分野の垣根を超えた出会いと、学生同士の親密なコミュニケーションを促す階段状の吹き抜け空間



デモストリート:
研究プロセスの可視化+すぐに試して挑戦できる学びの場を実現するために、研究室前の廊下を拡張した幅4m、長さ100mの実験場



TRY SQUARE: 地域開放の多彩なプログラムと回遊プランを組み合わせることで、学生や地域住民、企業など、さまざまな人びとが集まる半屋外広場

魅力再生®

建物は生命や財産を守る器であり社会の資産です。「魅力再生®」は、時を経た建物の機能や性能の向上、美観の回復、地球環境への貢献、コンバージョン、歴史的・文化的価値の保存・再生など、多様化・高度化するニーズに企画・設計・技術の総合力で応えることで資産価値や事業性の向上を目指し、建物をまもり、いかし、持続可能な社会の実現に貢献しています。



中央日土地博多駅前ビル

“まち”のため、“ひと”のため、“地球”のためのオフィス

新耐震基準による既存建物の地上3階以上を解体し、地下と地上2階までは既存躯体を補強、免震層を介し13階の新築としたテナントオフィスの計画です。既存躯体を利用した1～2階は、構造体をダイナミックに表現したピロティ空間を、公開空地やテラスとしてまちに開放しました。高層のオフィスフロアでは快適かつ創造的に働ける環境を提供するために、全ての貸室区画に緑化テラスを設けています。“まち”に開き、“ひと”を支え、“地球”に貢献する新たなオフィスのかたちを追求しました。

設計施工：竹中工務店 [紹介動画](#)



旧第一銀行横浜支店／BankParkYOKOHAMA

“歴史をつなぎ、文化を創る、まちにひらかれた交流拠点”

横浜市認定歴史的建造物「旧第一銀行横浜支店」を2025年に改修。1階には世界各地の工芸を集めたギャラリーやサステナブルな食を提供するダイニングカフェ、フラワーショップを備え、文化・芸術・観光を発信。地下1階・2～3階には多様な働き方を提供するワークスペースを計画し、象徴的なバルコニーは様々なアート・工芸などを展示する「まちかどギャラリー」として活用しています。まちにひらかれた、文化とサステナブルの発信・共創拠点として、まちに新たなにぎわいをもたらすことを目指しました。

設計施工：竹中工務店



都市開発・まちづくりによる新たな価値の創造

当社は、都市再生、市街地再開発、PPP/PFI事業、自社開発事業、

まちづくり組織への参画など、さまざまなプロジェクトを手掛けてきました。

これからも、構想・企画から取り組むことにより、新たな価値を創造し、まちの発展に貢献していきます。



©Akira Ito.aifoto

うめきた開発

JR大阪駅の北側で、1期(グランフロント大阪)・2期(グラングリーン大阪)を合わせて区域面積24ha、総延床面積100万㎡を超えるまちづくりを進めています。当社は企画・設計・施工の役割に加え、共同事業者として開発に参画しています。

イノベーション創出支援機能の充実と魅力的な「みどり」の空間の創出、大規模複合施設の整備により、大阪の国際競争力を高め、関西の発展を牽引することを目指したリーディングプロジェクトです。

イノベーション創出を支援する組織やタウンマネジメント・パークマネジメントをする組織を当社も含む共同事業者で立ち上げ、継続的に、新しい都市の価値を高めていきます。

グランフロント大阪(1期)

先行開発区域約7haで、延床面積約57万㎡の大規模複合開発です。2013年に竣工しました。

基本設計：日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ
 実施設計：日建設計、三菱地所設計、NTTファシリティーズ、
 竹中工務店、大林組
 施工：竹中工務店(JV)

グラングリーン大阪(2期)

(2024年9月 先行まちびらき、2027年度 全体開業)

開発事業者が、中央の都市計画公園(4.5ha)と民間宅地を一体的に整備・開発・運営する新しいまちづくりプロジェクトです。

設計：(南街区賃貸棟)三菱地所設計、日建設計、竹中工務店、大林組
 (北街区賃貸棟)日建設計、竹中工務店
 (北・南街区分譲棟)竹中工務店、日建設計
 (大屋根施設)SANAA事務所
 (公園施設)日建設計
 (VS設計監修)安藤忠雄建築研究所
 (都市公園・ランドスケープ)GGN(デザインリード)、日建設計、三菱地所設計
 施工：(賃貸棟・分譲棟・公園施設)竹中工務店(JV)
 (都市公園)大林組、竹中工務店、竹中土木(JV)



渋谷 ハルコ・ヒューリックビル

渋谷の魅力向上に資する新たなタイプの都市再生特区提案の支援、特定業務代行者として再開発事業の推進、設計・施工、エリアマネジメント運営支援などを行いました。まちの界限性を建物外周部に立体街路として取り入れ、個性的な店舗や劇場、事業化支援施設、オフィス、広場などを有機的に連携させ、ファッション・アート・演劇文化の育成・情報発信拠点として、まちづくりに貢献しています。

設計施工：竹中工務店 [詳細はこちら](#)



鳥取県立美術館

県立博物館美術部門の50年にわたるコレクションと活動を引き継ぎ、全国初となる公立美術館の新設・運営のPFI事業として倉吉市に2025年に開館しました。当社は大和リースグループの一員として、設計(共同)・施工、提案企画を担当しました。「OPENNESS」をブランドワードとし、建物中央の吹き抜け空間「ひろま」を設けるほか、「アートを通じた学び」を支援する活動も行われるなど、誰に対しても開かれた美術館となります。

設計：横総合計画事務所、竹中工務店
 施工：竹中工務店、懸樋工務店、丹青社



BASEGATE 横浜関内

PPP方式を活用した横浜市旧市庁舎街区の再整備計画です。本プロジェクトは、多種多様な施設計画と旧横浜市庁舎行政棟の保存・活用により、「新旧融合」を特色とした大規模ミクスْتُコース型プロジェクトです。当社は、事業コンペ段階から日本最大級の常設型ライブビューイングアリーナや低層商業施設、ホテルリノベーションの設計・事業提案を行い、ホテル事業メジャー出資者としてコンソーシアムへ事業参画しています。村野藤吾が設計した「旧横浜市庁舎行政棟」をホテルとして保全活用するにあたり、「新旧が融合した新たな都市のランドマーク形成」を評価頂き、戦後建造物として初めて横浜市歴史的建造物の認定を受けました。コンソーシアムの一員として関内駅周辺地区の新たなにぎわい創出に貢献します。

設計施工：竹中工務店 (JV)

[詳細はこちら](#)



長崎スタジアムシティ

ジャパネットグループのリージョナルクリエーション長崎が運営する、サッカースタジアムアリーナ・ホテル・商業施設・オフィスからなる大型複合施設です。当社は事業者の土地入札支援、基本構想立案、地区計画および交通計画、補助金対応、テナントリーシングなど幅広く対応し長崎の新たな集客拠点の実現に貢献しました。

基本計画：竹中工務店基本計画監修：仙田満

基本設計：環境デザイン研究所、安井建築設計事務所JV

実施設計(スタジアム・ホテル・商業)：竹中工務店

施工(スタジアム・ホテル・商業)：竹中工務店 (JV)

[紹介動画](#)



神戸須磨シーワールド／神戸須磨シーサイドパーク

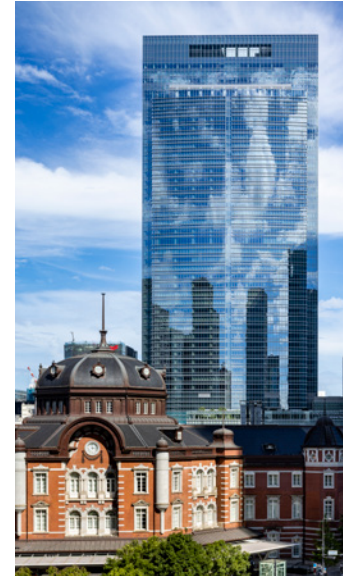
Park-PFI方式を活用した須磨海浜水族園・海浜公園の再整備事業です。地域コミュニティのための公園と観光集客を目指すリゾートを融合させた全体開発計画のもと、『つながる』エデュテインメント水族館をコンセプトとした「神戸須磨シーワールド」を核に、ホテル、にぎわい施設、既存の松林を保存した園地、立体駐車場から構成されています。当社は、事業コンペ提案から、設計・施工、交通計画等の行政協議、補助金申請まで幅広く対応したほか、コンソーシアムの1社として事業にも参画しています。開業後は、神戸の新しい観光拠点として広域から集客し、公園では地域住民の憩いの場として賑わいを生み出しています。

全体基本計画：竹中工務店、浅井謙建築研究所、E-DESIGN

設計：(水族館)竹中工務店、(園地) E-DESIGN

施工：(水族館・園地)竹中工務店

[詳細はこちら](#)



東京ミッドタウン八重洲

東京駅正面に建つ、オフィス・ホテル・小学校・交流施設・店舗・バスターミナル・地域エネルギーセンター(特電DHC)などの用途から成る、都市再生特区制度を活用した超高層複合建築です。当社は地権者として再開発事業に参画し、実施設計・施工者として携わりました。東京駅前の新たなランドマーク拠点として、都市の魅力向上や賑わい創出、国際競争力の強化に貢献しています。

基本設計・実施設計・監理：

日本設計

実施設計・施工：竹中工務店

[詳細はこちら](#)



大阪梅田ツインタワーズ・サウス

西日本最大のターミナルに位置する百貨店・オフィス・カンファレンスホールの複合施設です。道路上空を活用して隣接する2つの街区のビルを一体的に建替えるとともに、歩道やデッキなどの周辺公共施設整備を行いました。当社は実施設計、各種申請、施工、企画支援と、本開発の周辺地域のエリアマネジメントを担っています。

基本設計：日本設計

設計施工：竹中工務店

[詳細はこちら](#)



ハレミライ千日前

劇場を核とした岡山市の新たな文化芸術創造拠点整備と中心市街地の都市機能拡充を目的とした、市街地再開発事業による複合用途開発です。当社は事業の初期段階より参画し、基本計画から都市計画手続き、そして設計施工と、事業完了まで一貫して施行者である再開発組合のパートナーとなり事業推進を行いました。劇場の開館によりエリアの人流は増加し、賑わい再生に貢献しています。

基本設計・実施設計：竹中工務店 施工：竹中工務店 (JV)

[詳細はこちら](#)



パティナー大阪・なノにわ

大阪城公園の南側に位置するラグジュアリーホテル「パティナー大阪」と、隣接した難波宮跡公園をPark-PFIの手法で整備した「なノにわ」は、大阪城南部エリアの賑わい創出や回遊性向上、歴史・文化の発信に寄与しています。当社は両施設で設計・施工や企画支援を行い、大阪城公園周辺エリア全体の魅力向上や活性化に貢献しています。

パティナー大阪

実施設計・監理／施工：竹中工務店

基本設計/実施設計監修/内装設計監理：NTTファシリティーズ

外装デザイン：光井純 アンド アソシエーツ 建築設計事務所

ランドスケープアーキテクト：鳳コンサルタント

なノにわ

設計施工：竹中工務店

多様なお客様のニーズに グローバルに対応

当社の海外活動は歴史が長く、1960年代のアメリカ進出をきっかけに本格化しました。現在では世界各地にネットワークを広げています。

海外進出を目指す日本企業、各国の公的機関や現地企業などをお客様として、国際空港や超高層オフィス・ホテル・工場・商業施設など、プロジェクトの規模や建築種別にかかわらず多彩なプロジェクトを手掛けてきました。

近年は、データセンターや半導体関連施設など、グローバルなニーズに応えるプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。

さらに、設計施工はもとより、技術支援・コンサルティング業務など、活動範囲も多岐にわたっています。



上段左から ジャガー・ランドローバースロバキア新工場(2018 スロバキア) [イノバット スロバキア R&Dセンター\(2023 スロバキア\)](#) [ダイキン工業 ベルギー ゲントオフィス・R&D\(2024 ベルギー\)](#)

下段左から [チャンギ空港 第4ターミナルビル\(2017 シンガポール\)](#) [パンフィック センチュリー プレイス ジャカルタ\(2017 インドネシア\)](#) UMCシンガポール新工場(2024 シンガポール)

**2025年、インド竹中は設立15周年、
マレーシア竹中は設立35周年の節目を迎えました。**

インド竹中は設立以来、生産施設を中心に多くの工事を手掛けてきました。また、マレーシア竹中は近年需要の拡大するデータセンター、物流施設の建築に注力し、事業領域の拡大を進めています。

今後も棟梁精神を源流とする当社の設計施工の強みを活かした高い技術力を発揮するとともに、先端テクノロジーを積極的に活用し、お客様のサポートに努めていきます。



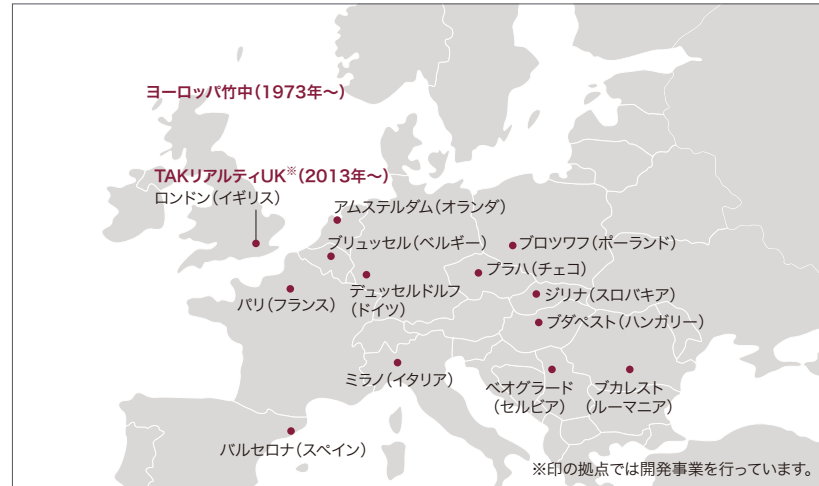
インド竹中 記念式典の様子



マレーシア竹中 記念式典の様子

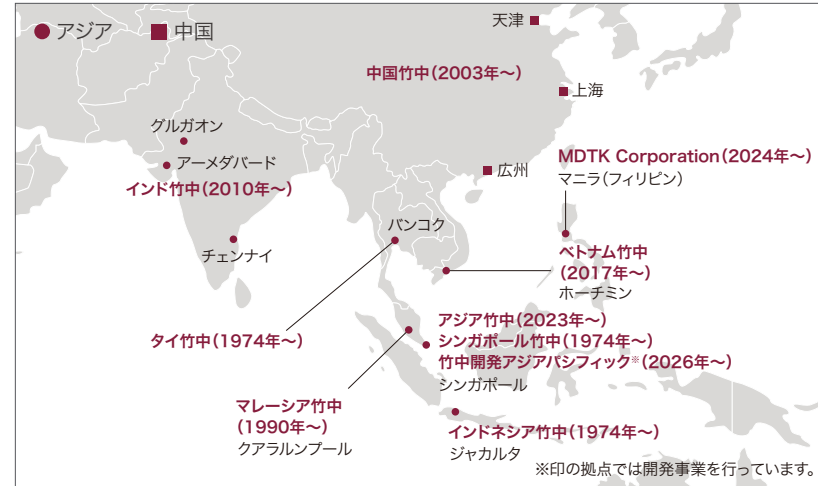
ヨーロッパ

1973年にドイツ・デュッセルドルフに事務所を開設して53年。ヨーロッパ竹中は、これまで1,500以上の工を手掛けてきました。現在はドイツ本社管轄の下、13カ国に拠点を展開し、駐在員約60名とローカルスタッフ約600名の体制で世界各国のお客様のニーズに対応しています。



アジア/中国

タイ・シンガポール、インドネシアでは拠点設立から52年、マレーシアでは36年、中国は23年、インドは16年目を迎えました。2017年にはベトナムに拠点を設立し、現在はアジア竹中管轄の7カ国及び中国の計8カ国に事業を展開しています。アジア・中国地域全体で駐在員約140名、ローカルスタッフ約1,700名の体制で、プロジェクトの規模や建築種別に関わらず幅広く対応しています。



アメリカ

当社は1960年にアメリカへ進出し、海外事業の礎を築きました。現在は開発事業およびコンサルティング事業を中心に活動しています。



🔗 ToyoTireセルビア新工場(2023 セルビア)



🔗 Daimlerポーランドバッテリー組立工場(2020 ポーランド)



🔗 相鉄グランドフレッサバンコク(2023 タイ)



ダイキン工業 蘇州デバイス開発センター(2025 中国)

自社開発不動産を通じて 長期的に安定した事業収益の拡大と自社建築ブランドの発展に貢献する

当社の不動産開発事業は1987年から国内事業を、1985年に海外事業をスタートし、国内外に40件の事業用資産を保有しています。

長期保有によるインカムゲインを投資方針とし、ポートフォリオの拡大、アセットタイプの多様化、資産価値の向上を図っています。

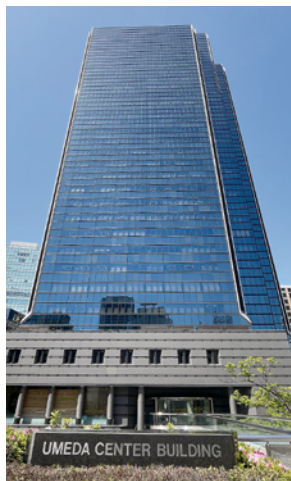
オフィス



大手センタービル

当社が東京・大手町で手掛けている開発事業プロジェクトです。利便性の高い立地条件を備え、新しいビジネスニーズに対応した継続的なリニューアルにより、ロング・ライフ・ビルディングとして快適なビジネス環境を提供しています。

設計施工：竹中工務店



梅田センタービル

大阪「梅田」に立地し、緑あふれるオープンスペースに快適なオフィス空間を提供しています。敷地の70%を占めるオープンスペースは、四季の自然に彩られたクリスタル広場や多彩な店舗が並ぶコリドール街、あらゆるイベントに自在に活用できる大規模ホール「梅田クリスタルホール」など、快適なビジネス環境をテナント各企業に提供しています。

設計施工：竹中工務店



クリスタルタワー

歴史と自然との調和を図る大阪の副都心・大阪ビジネスパーク(OBP)のランドマーク。敷地の85%は水と緑をテーマとした公開空地として開放し、ビジネスパークの憩いのスペースを提供しています。BCS賞など多数の賞を受賞し、現在でも大阪においては、築年数を感じさせないグレードの高いビルとなっています。

設計施工：竹中工務店



Tilt49 オフィスビル

Amazon、Google、Metaなど、大手IT企業の多くが拠点を置くワシントン州シアトル市は、全米で最も成長率が高い都市として発展を続けています。

本物件もAmazon社に長期一括賃貸しており、当社は建物の立地、将来性、収益性などを総合的に判断し、2017年12月の建物竣工と同時に取得しました。

設計：ZGF Architects

[詳細はこちら](#)



400/430カリフォルニア

米国サンフランシスコ市金融街の中心部に位置し、当社は2016年に取得しました。ランドマーク指定を受けた低層部分の保存・耐震改修やロビーリニューアル・アメニティ増設を含むバリューアッド工事を実施し、クラスAオフィスに蘇らせました。

設計：Walter Danforth

Bliss / William Baker Faville (低層棟)
Anshen & Allen Architects (高層棟)



ワンフリース・プレース

セントポール大聖堂を臨むミッドタウンの好立地に位置し、「シティ・テムズ・リンク駅」に直結しています。2024年には「クロスレール」開通により、ヒースロー国際空港までの所要時間が30分となり、利便性がさらに向上しました。本物件は弁護士事務所に長期一括賃貸しており、当社は英国への足掛かりとして2013年6月に取得しました。

設計：Skidmore, Owings & Merrill

商業

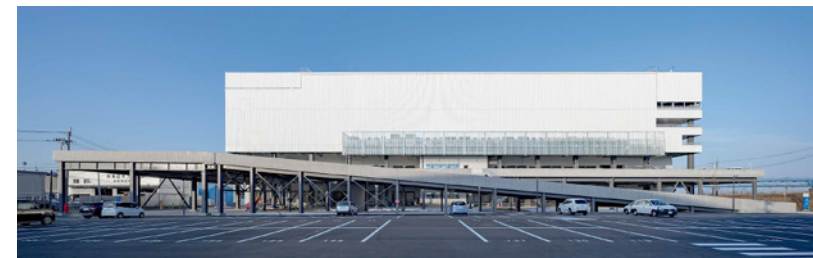


ココノススキノ

国内外から多くの観光客が訪れる札幌の「すすきの」に、ショッピング、映画、食事、宿泊と一日を通して楽しめる複合施設を2023年に開業しました。当社は既存地権者として当初から代替検討に参画し、多くの関係者の合意形成、事業パートナー選定、核テナントの誘致などを推進しました。多様な楽しみ方ができる「あそびば」を提供し、昼夜を通じた街の賑わい、活力を生み出しています。

設計施工：竹中工務店

ロジスティクス



仙台扇町ロジスティクスセンター

仙台市宮城野区の利便性の高い立地に「ビルド・トゥ・スーツ(BTS)型」の冷凍冷蔵倉庫を2022年末に開発しました。外壁には解体時の廃材が少ない断熱パネルを採用するとともに、上部に熱負荷を低減するための換気口を設け、さらに、屋上に太陽光発電パネルを設置することで、より環境性能の高い冷凍冷蔵倉庫としています。竣工後、当社も出資するファンドに組み入れ、運営を行っています。

設計施工：竹中工務店

ホテル



グランドハイアットカウアイリゾート& スパ

約20万㎡の広大な敷地にハワイアン・クラシックのコンセプトを軸にしたエレガントな空間とグランドハイアットブランドのサービスを提供しています。当社は開発、施工段階から現在のリゾート所有・経営までを一貫して自社で手掛け、お客様からの高い評価のみならず、地域コミュニティからの大きな信頼を獲得し、2025年には開業35周年を迎えました。

設計：WAT&G 施工：アメリカ竹中

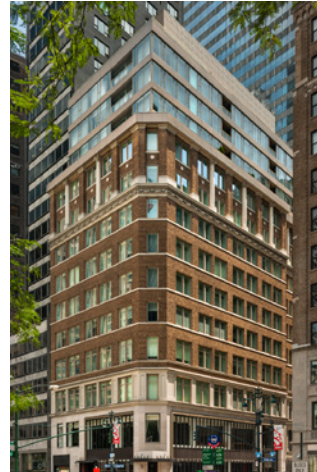


山荘 京大和・パーク ハイアット 京都

当社の自社開発事業として、開発から設計・施工・運営まで一貫して手掛けたプロジェクトです。長年にわたり地元で愛された料亭「山荘京大和」とハイアットの最高級ブランドが共存するという、歴史的に伝統と新しい文化を融合させてきた京都にふさわしい施設として、2019年10月に開業しました。京都の街と八坂の塔を一望できるラグジュアリーホテルとして国際的にも評価され、2年連続で「世界ベストホテル50」に選出されました。

設計施工：竹中工務店 インテリアデザイン：トニー・チー+竹中工務店 作庭：北山安夫

[詳細はこちら](#)



アンダーズ5番街

ニューヨークマンハッタンミッドタウンの5番街に位置するライフスタイル型ホテルです。

ホテルの外観は1914年からの歴史を誇る石灰岩とレンガ造りで、ニューヨークに多く見られるクラシックな高級アパートメントを想わせる趣のある佇まいです。2010年にハイアット社が著名なホテルインテリアデザイナーのトニー・チー氏の設計によりホテルに転換。Andazブランドを冠して開業しました。

インテリアデザイン：トニー・チー



ホテル日航サンフランシスコ

サンフランシスコ市の中心部、ユニオンスクエアから数ブロックの好立地にあります。ビジネス、観光、ショッピング等あらゆるゲストのニーズにふさわしい地上25階、533室の大型ホテルです。米国における当社初の開発事業として、土地の購入、事業計画、設計、施工を手掛け、建物の所有・運営を行ってきました。

設計施工：アメリカ竹中

住宅



フラッツ 東陽

単身赴任者向けの家具付き高級サービスアパートメント。大浴場など充実した共用施設とコンシェルジュサービスにより、入居者に快適ライフを提供しています。

設計施工：竹中工務店

[詳細はこちら](#)

フラッツ ウッズ 木場

当社独自の木造木質技術を盛り込み、2020年春に開業した251室の独身者向け高層サービスアパートメントです。

設計施工：竹中工務店

[詳細はこちら](#)



代々木参宮橋テラス

参宮橋エリアの閑静な住宅街に総戸数86戸の「代々木参宮橋テラス」が2023年春に開業しました。非分譲の大規模集合住宅として国内で初めて、Nearly ZEH-M認証を取得し、脱炭素の取り組みを進めています。

設計施工：竹中工務店

[詳細はこちら](#)



Press Block

2025年10月に開業を迎えた米国オレゴン州ポートランドにおける高層賃貸住宅開発事業です。現地デベロッパーとの共同事業で、当社は建設モニタリング業務も行い、専門性と総合力を活かしたプロジェクトとなっています。

設計：Mithun

[詳細はこちら](#)

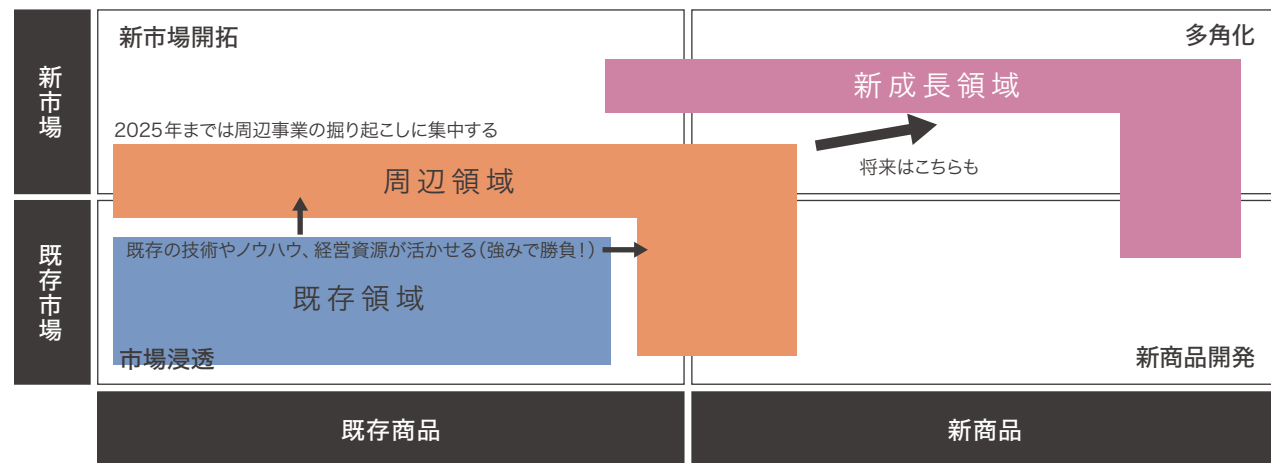
新たな価値創造を通じて、 社会課題解決と持続可能な社会の実現に貢献する

新規事業の目的

成長のために、企業利益向上の源泉として本業である建設事業への相乗効果やブランド向上につながり、かつ環境問題などの社会課題解決に寄与する事業を海外展開も含め幅広く創出します。「環境関連」「まちづくり・レガシー活用領域」「建設周辺・デジタル」「新領域」の4つの領域・テーマの事業に取り組んでいます。

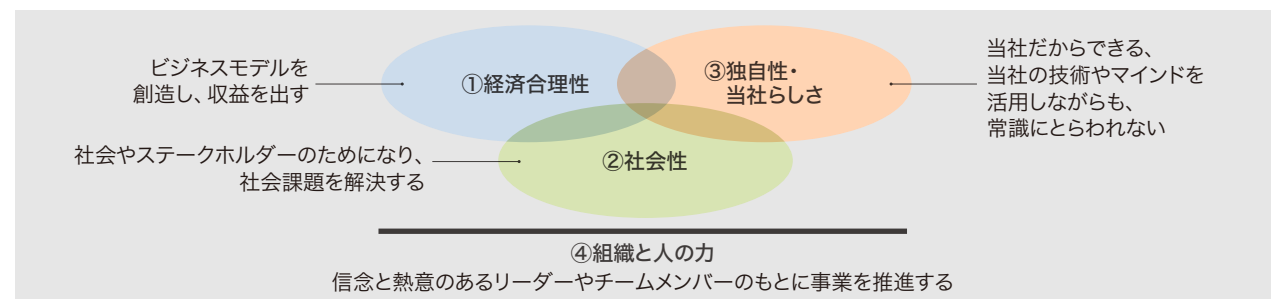
ポートフォリオ

既存の建設・開発事業を起点に、隣接・周辺領域から段階的に新市場・新サービスへ展開。リスク管理と持続可能な成長の両立を目指します。



新規事業開発で大切に「4つの観点」

これから、以下の「4つの観点」を持って新規事業を開発し、建築事業・開発事業に続く柱に育成していきます。



まちづくり・レガシー活用領域 (レガシー活用事業)

社会資産でもある名建築や歴史的建造物を、未来に継承するために、当社が建物をマスターリース(一括賃借)し、改修工事と、現代ニーズに合致する運用と活用を実践することで、建築や街のブランド価値向上に取り組みます。

旧山口萬吉邸 / kudan house 【第一弾】



築90年を超える個人邸「旧山口萬吉邸」をマスターリースし、国の登録有形文化財への手続きとコンバージョンを行い、会員制のビジネスインベーション拠点として活用。

[詳細はこちら](#)

建物名称: 旧山口萬吉邸
施設名称: kudan house
所在地: 東京都千代田区
竣工: 1927年
改修: 2018年
用途: ビジネスサロン(会員制)
(2024年 BELCA 賞受賞)

堀ビル / goodoffice新橋【第二弾】

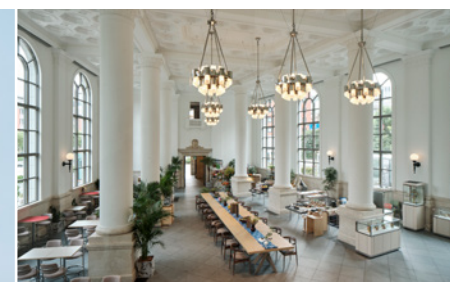


東京新橋にある国の登録有形文化財「堀ビル」をマスターリースし、オフィス兼住宅として使われていた名建築をコンバージョンして、シェアオフィスとして活用。

[詳細はこちら](#)

建物名称: 堀ビル
施設名称: goodoffice新橋
所在地: 東京都港区
竣工: 1932年
改修: 2020年
用途: シェアオフィス

旧第一銀行横浜支店 / BankPark YOKOHAMA 【第三弾】



元銀行店舗であった横浜市認定歴史的建造物「旧第一銀行横浜支店」を10年間マスターリースし、ギャラリー併設のカフェやシェアオフィスにコンバージョンしました。資源循環の取り組みや文化芸術の発信を行う拠点として活用しています。

[詳細はこちら](#)

建物名称: 旧第一銀行横浜支店
施設名称: BankPark YOKOHAMA
所在地: 神奈川県横浜市
竣工: 1929年(2003年 復元)
改修: 2025年
用途: 飲食・シェアオフィス等

まちづくり・レガシー活用領域(まちづくり事業)

歴史的建造物を複合施設として再生し、地域の文化と経済を活性化。持続可能な地方再生モデルを展開しています。



ツミカサネ 第一工場(丸太から単板を製造する拠点)

木曽森林グランドサイクル構想 (シンゴーハン/株式会社ツミカサネ)

長野県木曽地域の廃校2校を活用し、これまで有効活用が困難だった小径木を、高付加価値な建築や内装材に再生する合板製造事業「(仮称)シンゴーハン」を展開します。運営会社として株式会社ツミカサネを設立し、旧檜川中学校(塩尻市)と旧上田小学校(木曽町)の2拠点体制で事業を推進します。木材の産出から加工までを一貫して地元で行うことで、森林の健全な再生促進や地域経済の活性化、持続可能な森林資源の循環利用、地域雇用の創出に貢献していきます。今後、2026年秋に本格稼働を予定しています。

[詳細はこちら](#)

歳吉屋 -BYAKU Narai- (奈良井宿 古民家群活用プロジェクト) (2025年 BCS賞・2024年 BELCA賞受賞)

400年続く中山道の宿場町・奈良井宿で、築200年の旧杉の森酒造家屋を改修し、酒づくり事業を継承・再興するとともに、宿泊施設・レストラン・浴場などを併設する小規模複合施設として再生しました。外観の保存規制があるなか、耐震性・温熱環境・防火性能を向上させながら、遺すものと変えるものを峻別し、全室異なるアクセスを持つ客室や酒蔵のレストランなど、懐古的な保存再生だけでなく、驚きや非日常性をもたらす空間を創出しました。

[詳細はこちら](#)



歳吉屋 -BYAKU Narai-



木質バイオマス発電

[詳細はこちら](#)



地熱発電



風力発電(画像はイメージです)

環境関連領域

再生可能エネルギー事業を展開し、収益基盤構築と脱炭素社会の実現に貢献します。地熱発電などを通じ、地域社会と協働してエネルギーの地産地消と地域経済活性化への貢献を目指します。

2040年のScope2カーボンニュートラル達成に向け、当社グループ一体となった再生可能エネルギー確保に向けた新規事業を展開しています。これまで展開していた愛媛県内子町での木質バイオマス発電・熱利用、岐阜県奥飛騨での地熱発電に加え、新たに宮崎県えびの市での地熱発電の検討を開始するとともに、陸上風力発電の展開検討も進めています。小水力発電、太陽光発電とあわせたエネルギーミックスによるポートフォリオを構築しています。

これらの多様な電源開発により、2031年には国内グループ全体の電力需要量をカバーする設備容量の確保を目指します。また、地域との共生を重視した持続可能な事業展開を通じて、グループの脱炭素化と新たな収益基盤の確立を図るとともに、将来的に外部への電力供給事業へと展開することも視野に入れた事業基盤の構築を進めています。

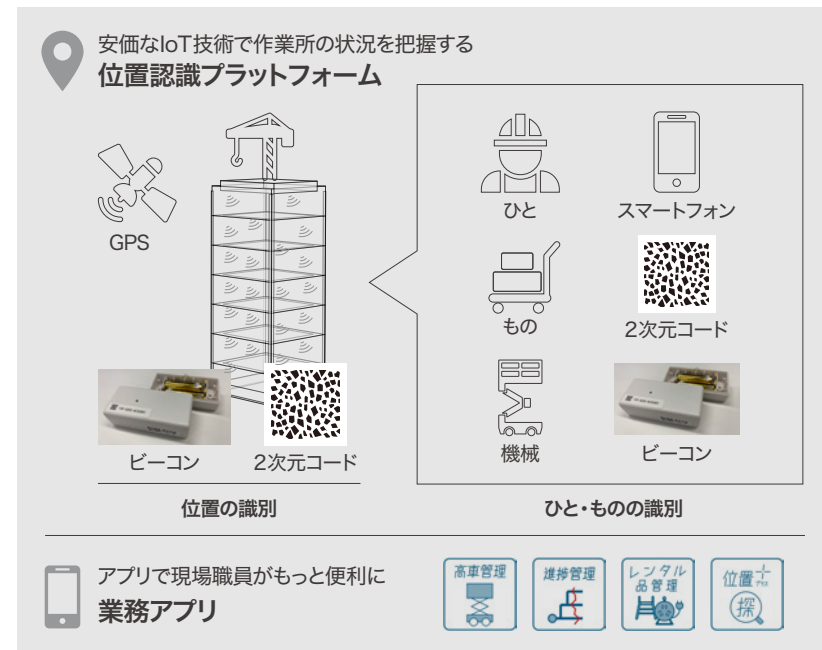
建設周辺・デジタル領域

建築の見識とデジタル技術を融合し、業界の課題に革新的な解決策を提供。

収益性と成長性を追求しつつ、既存建設事業とのシナジーを最大化し、持続可能な企業価値創出を目指します。

位置プラス事業

位置情報技術をベースとした現場向けアプリケーション「位置プラス®」シリーズの各種アプリを開発し、グループ会社の朝日興産を通じて60社の建設会社に販売・サービス提供。資機材管理や進捗管理、ひとの管理などを効率化し、職員や協力会社職長の手間削減とコスト抑制を実現しています。累計導入現場数は700現場を超え、年商1,000億円以上のゼネコン・設備サブコンの約7割との基本契約を締結し、サービス提供を行っています。取扱いレンタル会社も17社を超え、現場のサプライチェーンを考慮したDXを推進しています。今後、現場ユーザーのニーズに基づいた開発や、現場DXベンダー各社との連携機能の開発を強化していきます。



オフグリッド型モビリティの活用事業

(2025年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞受賞)

当社が開発した「オフグリッド型モバイルハウス」は、自立電源(ソーラーパネルと蓄電池)と自立通信(衛星通信)を搭載し、電気や通信インフラのない場所でも運用可能です。建設現場の環境改善と生産性向上に寄与しつつ、災害時には地域の安全拠点として機能します。平常時と非常時をつなぎ、まちの新たな価値創造を目指す取り組みです。2024年12月の会社設立以降、レンタル・販売事業では建設業界を中心に展開し、多様な業界からの引き合いが増加しています。地域復興支援や防災拠点整備など社会課題の解決に向けた活用も進んでおり、各地でオフグリッド技術を活用した新しいまちづくりの実証実験を計画し、既存インフラに依存しない持続可能な地域発展モデルの構築を目指しています。



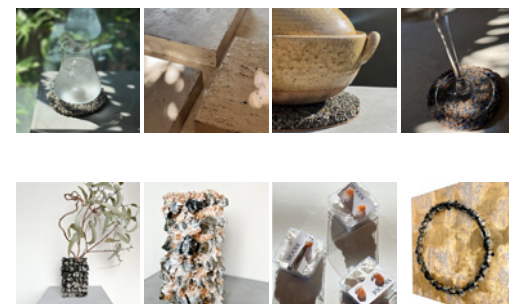
ロボ工事業

建設業界初の新職種「ロボ工」による現場密着型DXサービス事業を企画。現在社内テスト導入により効果を実証中。ICTツール導入・運用、ドローン撮影、3Dスキャンなど多様なデジタル技術を活用し、現場監督の負担軽減とデジタル化促進を両立。建設現場の生産性向上と働き方改革の実現を目指しています。



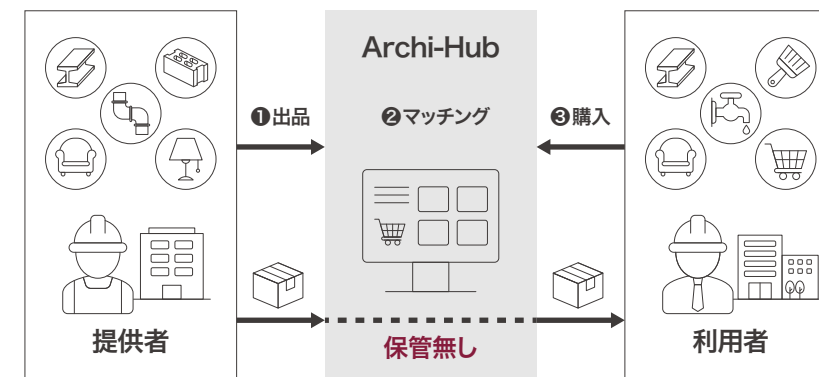
建設廃棄物アップサイクル事業

建設現場で発生する廃棄物に新たな価値を付加し、デザイン性の高い商品として再生するアップサイクルの取り組みを展開。コンクリートガラを活用したコースターや花瓶、おがくずを活用したアクセサリなどを、協業クリエイターと連携してオンラインストアで試験販売しており、循環型社会の実現を目指しています。



建築リユース事業

解体・改修工事で発生する建材を新たな建築プロジェクトで再利用する循環型建築の実現に向けた取り組みを推進。建材のリユース可能性を診断し、提供者と利用者をマッチングするプラットフォーム「Archi-Hub」を開発し、建設業界の廃棄物削減と資源循環の促進を目指しています。



インフラ整備を通じて 人びとの豊かな暮らしを支える

竹中グループの中で、竹中土木は土木分野の専門会社としてグループ経営の一翼を担っています。竹中土木は、国内では大型プロジェクトへの参画、防災・減災工事への取り組み、土地区画整理事業、土壌汚染対策工事などの実績を積み上げていくとともに、海外事業や新規事業の展開についても前向きに推進し、社会・経済の基盤づくりを通じて人々の豊かな暮らしを支えています。

また、グループ連携を一層強化して事業領域の拡大を図りながら、竹中グループが目指す脱炭素、生物多様性、資源循環への取り組みを通じて社会課題の解決に貢献していきます。



国道121号湯野上2号トンネル工事

国道121号湯野上バイパスは、下郷町大字高隲から下郷町大字塩生に至る延長8.3kmの高規格道路です。観光期の混雑緩和、落石崩壊や線形不良といった交通支障箇所の整備のほか、南会津地方の住民の救急医療へのアクセス性の向上を目的として、2012年度から国が直轄権限代行事業として整備を進めています。

本工事では、国土交通省が進める「i-construction2.0」の考えに基づき、ローカル5Gとバーチャル空間での360度ライブストリーミングにより、遠隔地からリアルタイムで施工状況を自由視点で確認できるシステムを構築し、また、トンネル工事において地盤の状態を確認するための「岩判定」を遠隔から実施する実証実験も行いました。今後は、コンクリート吹付作業における遠隔操作への適用も検討しています。

発注者：国土交通省東北地方整備局

施工地：福島県南会津郡下郷町大字高隲～白岩地内

工事内容：トンネル延長L=1,936m(全長2,579m)、トンネル掘削L=1,930m、覆工・インバートL=1,562.5m他一式



トンネル切羽の岩判定を遠隔から行う実証実験の様子



すさみ串本小河瀬谷川橋(下部工)工事

一般国道42号すさみ串本道路は、和歌山県の東牟婁郡串本町サンゴ台から西牟婁郡すさみ町江住に至る19.2kmの自動車専用道路です。また、近畿自動車道紀勢線(田辺～すさみ)と連続しており、紀伊半島沿岸部の大阪府から和歌山県南部地域を結ぶネットワークの一部を構成しています。この道路は、国道42号の和歌山県東牟婁郡串本町から西牟婁郡すさみ町間における、異常気象時通行規制区間の解消、防災・災害時の代替路確保などを主な目的としています。



マニラ首都圏地下鉄事業

フィリピンのマニラ首都圏は、人口増加によって過密化しているにもかかわらず、首都圏内の高架鉄道3路線の総延長が50キロメートルにとどまるなど、大量輸送手段としての軌道系公共交通の整備が遅れており、交通渋滞が深刻になっています。これが円滑な物流や移動のボトルネックとなって経済的損失につながり、フィリピンの国際競争力を低下させる要因になっています。そのため、同国政府は、マニラ首都圏の南北軸となる大規模公共交通を整備し、首都圏中心部と郊外とを結ぶ公共交通網を強化することを計画しています。これにより、南北軸に沿った計画的な市街地の拡大と公共交通機関へのシフトを促すことになり、中心部の人口過密解消と交通渋滞緩和につながります。マニラ首都圏において地下鉄を整備することで、輸送需要の増加への対応を図り、マニラ首都圏の深刻な交通渋滞の緩和に資するとともに、大気汚染や気候変動緩和に寄与します。

発注者：フィリピン共和国運輸省
 施工地：フィリピン首都圏
 工期：72カ月(SA-3契約時)
 施工体制：清水・フジタ・竹中土木・EEI JV
 工事内容：
 ・駅舎：4駅地下3層、長さ235～380m、幅26～36m、
 ・シールドトンネル工事：4.75km × 上下2本＝
 計9.50 km、仕上内径6.1m
 ・地下移行開削部：360m
 ・車両基地(約30ha)の土木・建築工事他一式
 計71,400㎡



ハイウェイテクノフェア2025の竹中土木ブース展示の様子

ロボット×竹中土木の未来

～安全かつ効率的な耐震補強工事の実現を目指して～

竹中土木は、株式会社人機一体と共同で、危険を伴う現場作業を建設ロボットによる安全で効率的な作業にすることを目指し、ロボティクス分野の開発に継続的に取り組んでいます。橋梁の耐震補強工事で橋脚に鋼製ブラケットなどの重量物を取り付ける際、上部に橋桁がありクレーンの吊り上げ高さに制限があるため、チェーンブロックで重量物を吊り上げて、ボルト位置に合わせて微調整するという一連の作業を手作業で実施しています。

開発中の橋梁耐震補強用鋼製ブラケット取付ロボットは、重量物を保持しながら繊細な位置・姿勢の調整を遠隔操作できるロボットです。このロボットをクレーンなどの揚重機に取り付けることで、ブラケットの揚重から位置決め、設置、ボルト仮締結までの一連の作業を安全かつ効率的に実施することができ、作業時間を大幅に短縮することができます。



開発中の橋梁耐震補強用鋼製ブラケット取付ロボット



橋梁の桁下に重量物を取り付け、ボルトを仮締結する(イメージ)



取り付け作業は遠隔操作機からモニターを見ながら、繊細で敏感な操作が可能

安心で快適な 未来を育む建物管理



竹中セントラルビルサウス 管理センター

竹中グループの中で、アサヒファシリティーズは建物管理の専門会社としてグループ経営の一翼を担っています。建物一つひとつには、そこで過ごす人々の営みや暮らしがあり、それぞれの未来・物語が育まれる場所でもあります。

建物管理のスペシャリストたちは、そんな街中にある建物の一生を支えています。



日常点検



メーター検針

主なサービス

建物管理

設備管理から警備、清掃など、多岐にわたるサービスを提供して、建物を永く安全に守ります。

- ・設備管理 ・警備 ・清掃 ・中長期保全計画
- ・建物、設備診断 ・改修、更新工事
- ・エネルギーソリューション ・環境維持
- ・植栽管理



作業前打合せ



運転・点検・整備

プロパティマネジメント

私たちのプロパティマネジメントは、お客様の不動産価値の最大化と入居者満足度の向上を両立させる、信頼のパートナーです。建物の運営管理に関する業務を一括で受託することで、収入の最大化と支出の最適化を図り、長期にわたってお客様の利益の最大化に貢献します。

- ・リーシング業務
- ・入退去管理
- ・建物管理
- ・会計業務
- ・コンサルティング
- ・工事監理

集約管理

デジタル技術を活用して建物管理情報を集約し、近傍の複数建物を一元的に管理することで管理品質をそのままに、管理コストを抑制します。日常は効率的なリモート管理により建物の状態を把握し、設備故障などの緊急時には警報監視機能などにより迅速に対応します。

複数建物を集約して管理

地域や特性ごとに建物を集約して管理することで、管理品質の向上、管理コストの抑制とバックアップ体制の強化に繋がっています。

中央管理システムによるリモート監視・制御

デジタル技術を活用し、複数建物の中央監視システムを管理センターから遠隔監視・制御。24時間365日体制で建物を絶え間なく見守ります。



管理センターからのリモート監視・制御

緊急時の対応体制完備

コールセンター、警報監視機能などを完備し、お客様の建物のインシデントを把握します。「緊急サポートセンター」を中心に、現地駆け付けや作業手配など迅速な対応を確実に実行します。



緊急時の駆け付け対応

イノベーション

多様な社会課題の解決や新しい価値創出を生み出す先進技術を、建物管理の分野にタイムリーに導入することで、生活空間の更なる快適性を追求するとともに十分な安全性を確保し、常に「最良の建物管理」でお客様に安心をお届けしていきます。



警備ロボット

DXの推進

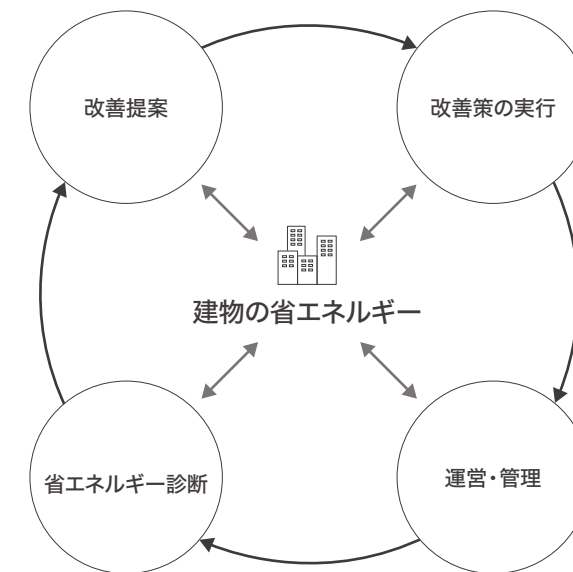
点検・検針業務にAI技術が活用された「管理ロイド」を採用するなど、先進的な建物管理技術を取り入れて従来の建物管理業を変革し、最高の管理品質の確保と最適な業務効率化を図っています。



メーター検針にAI技術を活用した「管理ロイド」

環境・エネルギー

省エネルギー診断、設備のエネルギー効率改善提案、省エネ法対策支援などにより、お客様建物の省エネルギーに取り組んでいます。地球温暖化抑制のためのGHG削減や環境破壊防止のための廃棄物削減など、建物管理を通じて社会に貢献していきます。



高い設計技術と豊富なノウハウで 企画・設計・施工から運用までをサポート

エネルギー消費量を実質ゼロとする建物「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の設計件数は年々増えており、BELS認証を受けたZEB件数は、当社が業界No.1の実績となっています*1。2050年カーボンニュートラル社会実現に向けて、更なるZEBの普及が必須となります。当社は、ZEBの設計を効率化するためのツール「ZEBIA®」と「ZEB設計ガイドライン」を開発・整備しました*2。

ZEBIAは、設計初期段階から利用可能で、シンプルな操作性でニーズを反映したシミュレーションを行い、複数のシミュレーションを同時に実行が可能です。設計フローと手順を体系化したZEB設計ガイドラインと組み合わせて使用することで、設計に要する時間と労力を大幅に削減しながら、快適性とデザイン性を兼ね備えたZEBを提案していきます。

[紹介動画](#)

受賞歴

[省エネ大賞\(製品・ビジネスモデル部門\)経済産業大臣賞](#)

[気候変動アクション環境大臣表彰\(先進導入・積極実践部門\)環境大臣賞](#)

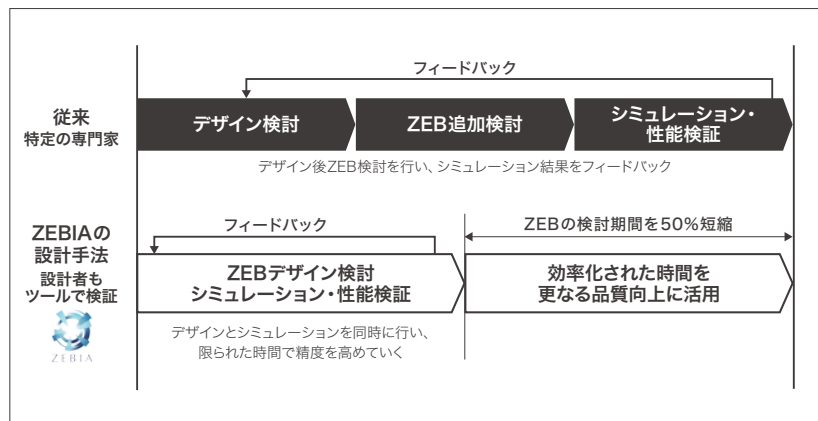
*1 当社調べ(2024年12月末時点)：一般財団法人住宅性能評価・表示協会のBELS事例データ一覧より設計者公開物件を集計(施工のみは除く)

*2 アメリカの建築環境コンサルティング事務所Loisos+Ubbelohdeと共同で開発

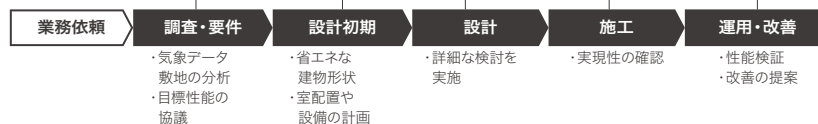


ZEB設計ガイドライン

竹中工務店の独自技術ZEBIAの検討フロー



事業計画から竣工後の対応まで一貫してZEB達成をサポート

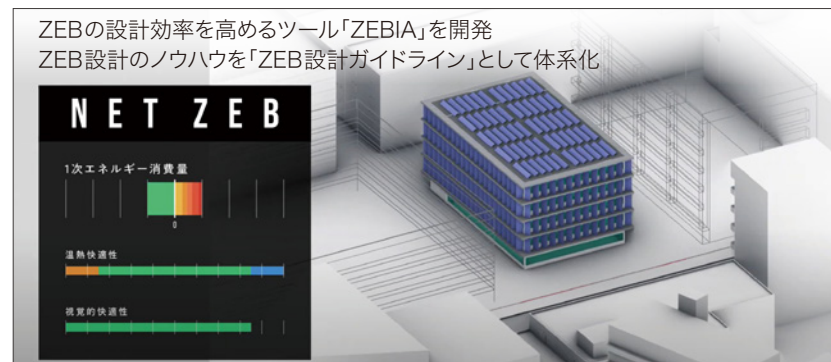
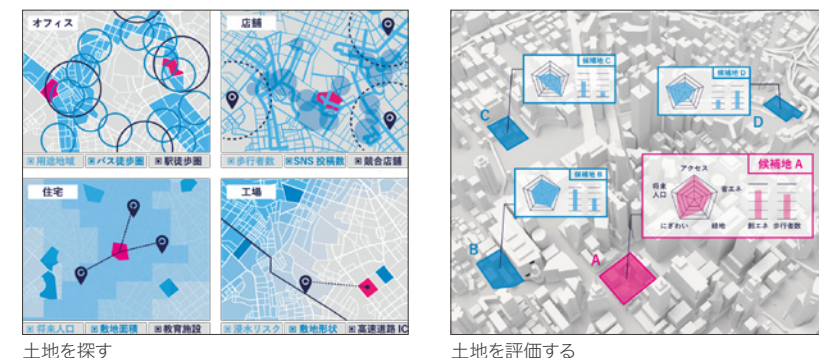
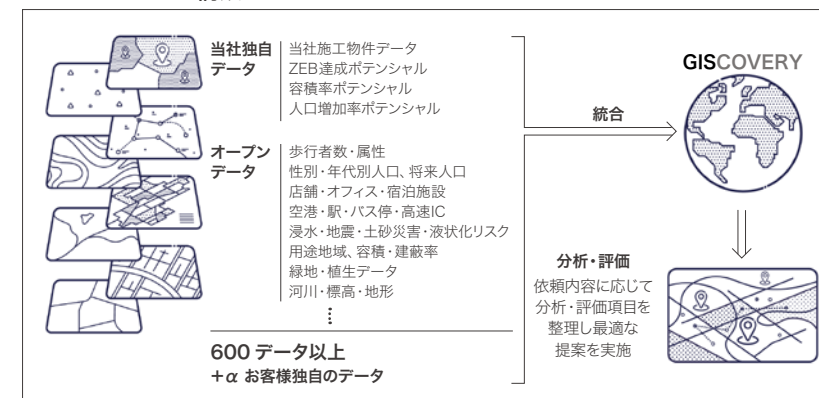


新たな時代の土地探索を可能にするGISプラットフォーム「GISCOVERY®」

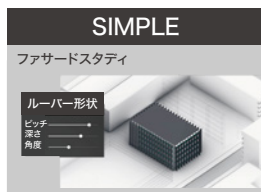
当社が長い歴史の中で積み重ねてきた建物・土地に関する独自のデータと多様で膨大なオープンデータを地理情報システムGISにより統合することで、お客様の事業計画に必要な、土地の選定・評価・活用するためのプラットフォーム「GISCOVERY®」を開発しました。当社はこのGISプラットフォームを用いて、土地のポテンシャルを正確かつスピーディに検討・立案することで、お客様の事業計画推進をサポートしていきます。

[紹介動画](#)

GISCOVERYの構成



条件設定のテンプレートを
用いて即座に検証



充実のライブラリから
直感的な操作で条件設定



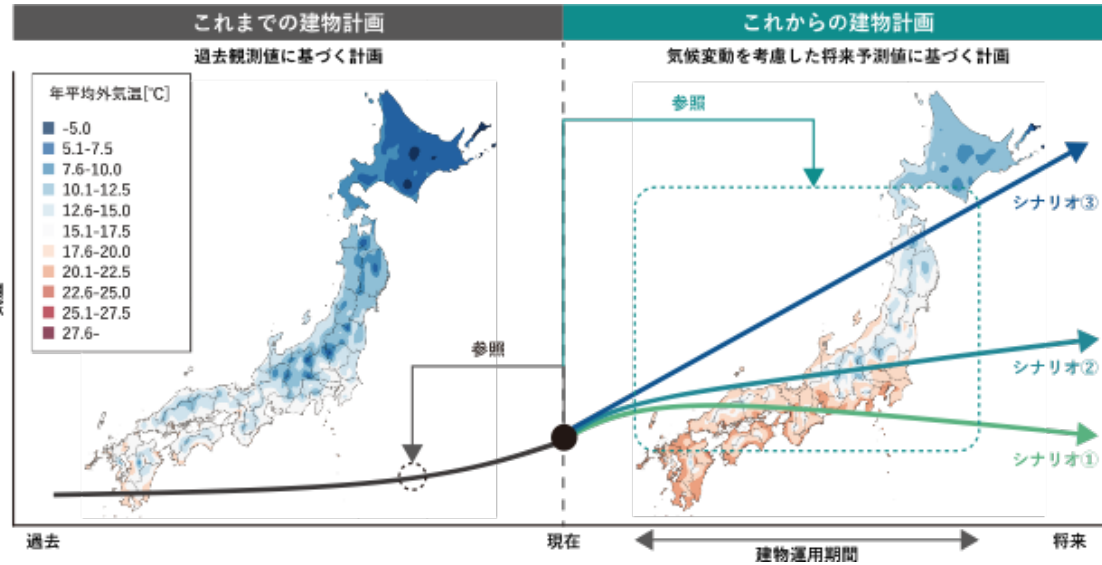
3Dモデルから様々な
環境性能を検証可能

気候変動の緩和・適応・レジリエンスを考慮した建物設計のための将来気象データ「Met.box®」

日本全国の2090年までの気象変化をIPCCの気候変動シナリオに基づいて予測した、建物計画用の将来気象データ「Met.box(メットボックス)」を開発しました。Met.boxには将来の標準的な気温や湿度のデータのみならず、熱波や豪雨など、数十年から数百年に一度発生する異常気象のデータも含まれています。これまで一般的だった過去の気象観測値に基づく建物計画から、気候変動の緩和・適応・レジリエンスを考慮し、将来に渡って環境性能、快適性、安全性の高い建物を提案します。気候変動シナリオ数・予測期間・地点数の観点で、建物設計のライフサイクル評価に適した将来気象データは、一般に入手可能ではありません。当社は社会の気候変動対策に貢献することを目的とし、「Met.box」やその分析結果を広く公開します。今後の開発と活用に対し、様々な方との連携や協業を目指しています。

[データにはこちらからアクセスいただけます](#)

[将来気象データMet.box利用規約](#)



気候変動を考慮したこれからの建物計画

生体情報と位置情報を活用したオフィス空間評価システム「GISTA®」

建物内における利用者の生体情報(心拍データ)と位置情報を測定し、データに基づいてオフィス空間を評価するシステム「GISTA(ジスタ)」を開発しました。本システムから得られるオフィス空間のデータを実測・分析・評価することで、お客様それぞれの職場環境や働き方、組織の特徴に合わせたオフィスの新築・改修提案を行うことに加え、利用者へのフィードバックにより個人の生産性向上をサポートします。「GISTA」を活用したオフィス空間評価ソリューションの提供により、個人と組織の更なる生産性向上に寄与します。

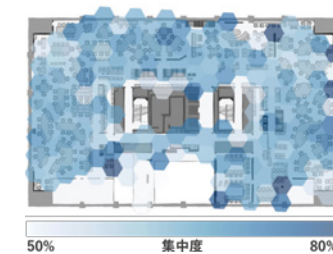
[紹介動画](#)



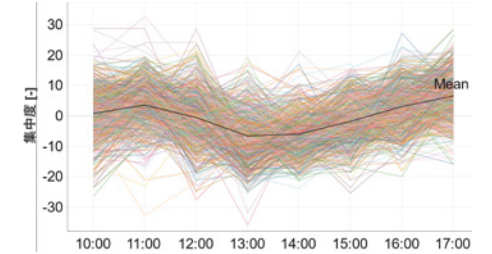
GISTAアプリ

GISTAの利用イメージ

「GISTA」アプリ内で集中度・ストレス度をはじめとする生体指標をリアルタイムで確認できます。位置情報と生体情報を掛け合わせることで、どの場所で集中度高く業務が行われているかを可視化します。結果に基づき、生産性向上に向けたオフィス空間の改善検討が可能になります。



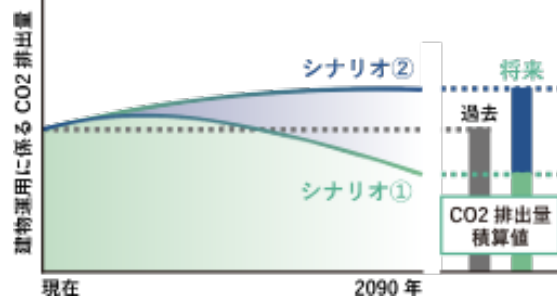
集中度のヒートマップ



1日の集中度の推移

気候変動の緩和 -Mitigation-

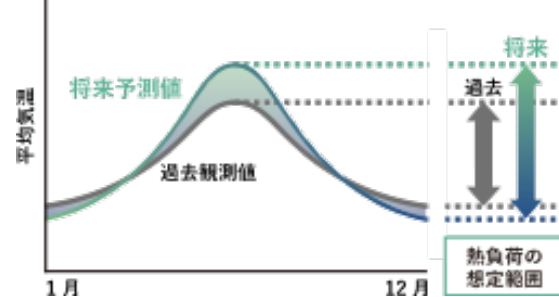
CO₂排出量を正確に算定し、脱炭素目標を達成する建物計画を提案



緩和: CO₂排出量の正確な算定と削減計画

気候変動への適応 -Adaptation-

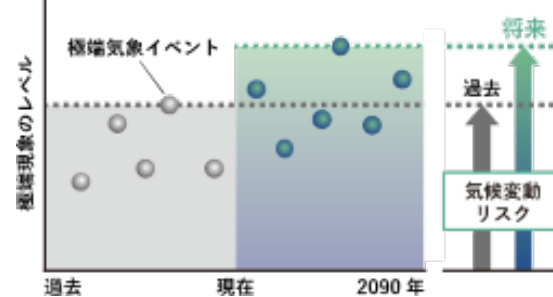
将来の環境変化に対する適応性の高い建物計画を提案



適応: 将来の気象変化に対する適応性の高い建物計画

気候変動へのレジリエンス -Resilience-

将来の異常気象に対する建物のBCP計画を提案



レジリエンス: 将来の異常気象に対する災害対策・BCP計画

お客様の課題に 最適なソリューションを

市場変化に追従したスピーディーな対応、高度な建物環境、様々な安全・安心が求められています。

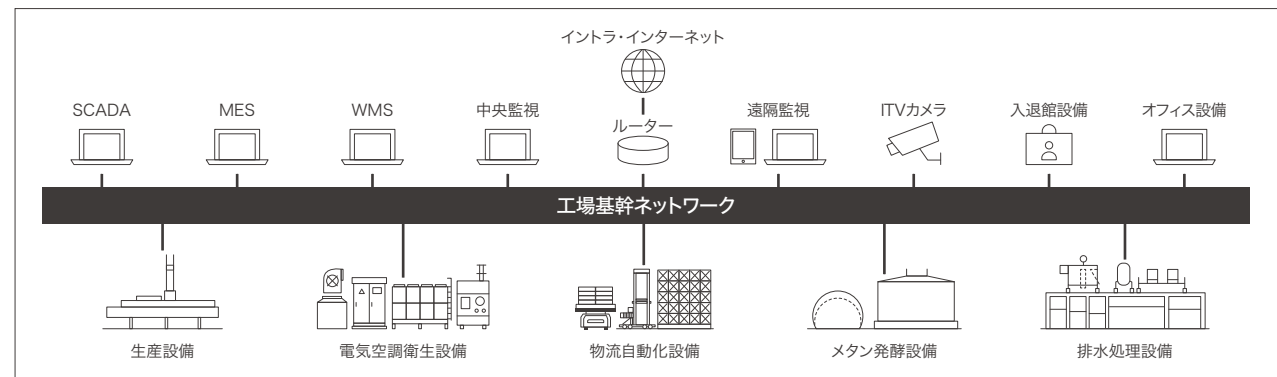
当社は、お客様のニーズに対し、企画段階から計画・設計・施工・アフターケアまでトータルエンジニアリングでお応えします。

次世代型のスマートファクトリー

生産設備、物流設備、OA設備に加え、脱炭素に対応する環境設備を統合ネットワークで結び、収集されたビッグデータの活用による生産性の向上、省力化、エネルギー削減など、DX*1とGX*2が融合した未来の工場づくりを進めています。

瀬戸内海の自然に囲まれた「カルビーせとうち広島工場」は、自動化・脱炭素・働きやすさを極めた「次世代マザー工場」です。

当社は、統合ネットワークの構築をはじめ、食品加工残さを活用した資源循環をエンジニアリングしました。



統合ネットワーク概念図

次世代工場を支える情報インフラ (DX統合ネットワーク構築)

生産・建物・OA・環境の全設備を繋ぐ神経網として基幹ネットワークを構築しました。リアルタイムなデータ連携により、エネルギー効率の最適化はもちろん、生産ラインの遠隔監視を可能にし、生産体制の基盤を実現しました。

AGV活用による搬送自動化 (工場内物流の自動化・省力化)

「運ばない・待たせない・探さない」現場を目指し、原材料の受け入れから製品の保管まで、工程間をAGV*3とWMS*4でシームレスに接続。人の手による重筋作業を廃止し、安全性と効率性を両立した物流環境を構築しました。

おいしさと品質を支える基盤 (プロセスサポート対応)

一般ユーティリティに加え、ポテトチップスのおいしさの要となる食油設備や、食の安全を支えるCIP*5設備のエンジニアリングを実施。お客様の厳しい品質基準に応えつつ、安定供給を支えるインフラを整えました。

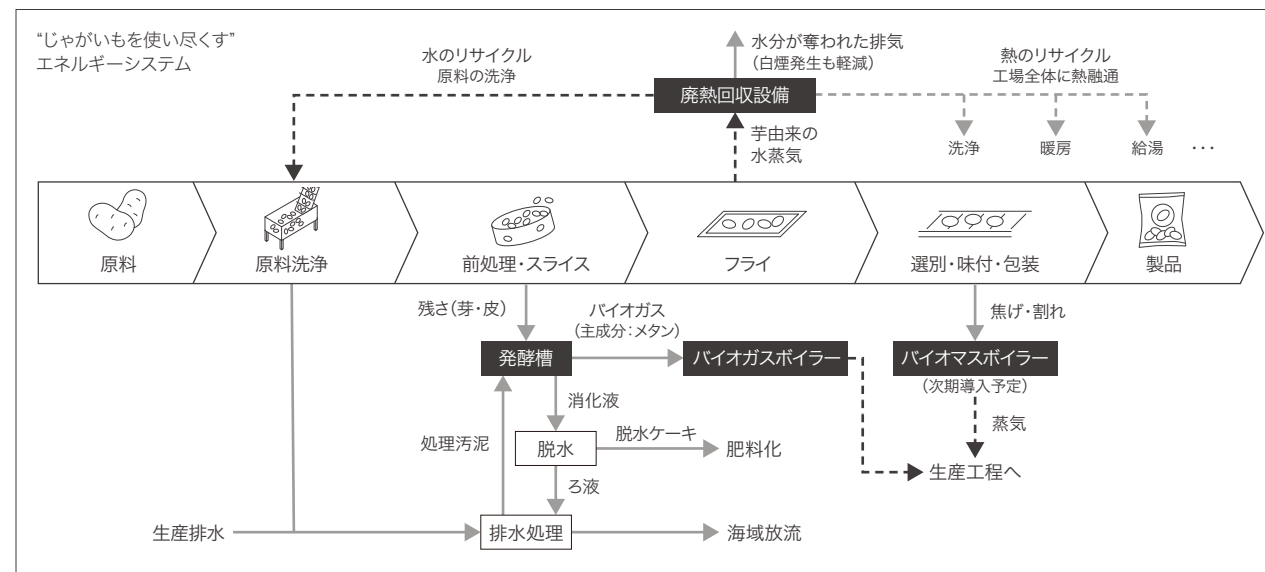
廃蒸気の水・熱循環システム (廃熱・排水回収対応)

スライスしたじゃがいものフライ工程で立ち昇る「廃蒸気」に着目し、これを「水」と「熱」に分離・回収する技術を導入しました。回収した水は洗浄水へ、熱は温水製造へとプロセス内で循環利用し、エネルギーロスを極限まで抑えています。

じゃがいもを使い尽くす技術 (排水処理・廃棄物削減対応)

製造過程で出る「じゃがいもの皮」などの残さを、廃棄物ではなく資源として活用。メタン発酵によりバイオガスを生成し、工場の蒸気ボイラーの燃料として再生利用することで、「じゃがいもを使い尽くすエネルギーシステム」を実現しました。

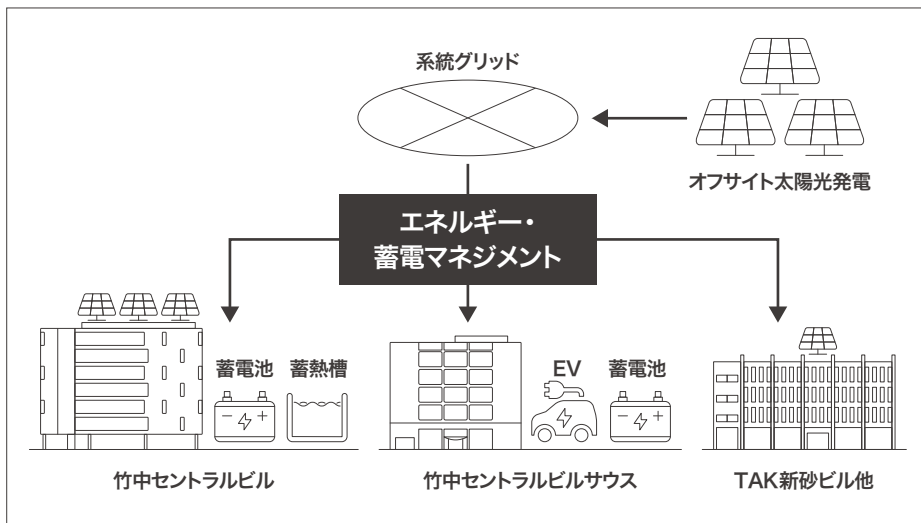
- *1 DX(Digital Transformation) : デジタル技術で生活をより良いものに变革すること
- *2 GX(Green Transformation) : 温室効果ガスを排出しないエネルギーへ転換すること
- *3 AGV(Automated Guided Vehicle) : 無人搬送車
- *4 WMS(Warehouses Management System) : 倉庫管理システム
- *5 CIP(Cleaning In Place) : 設備を分解せずに自動洗浄するシステム



食油タンク室(食油供給設備) 出荷エリア(自動搬送設備) 屋上設備エリア(廃熱・排水回収設備) 環境設備エリア(メタン発酵設備)

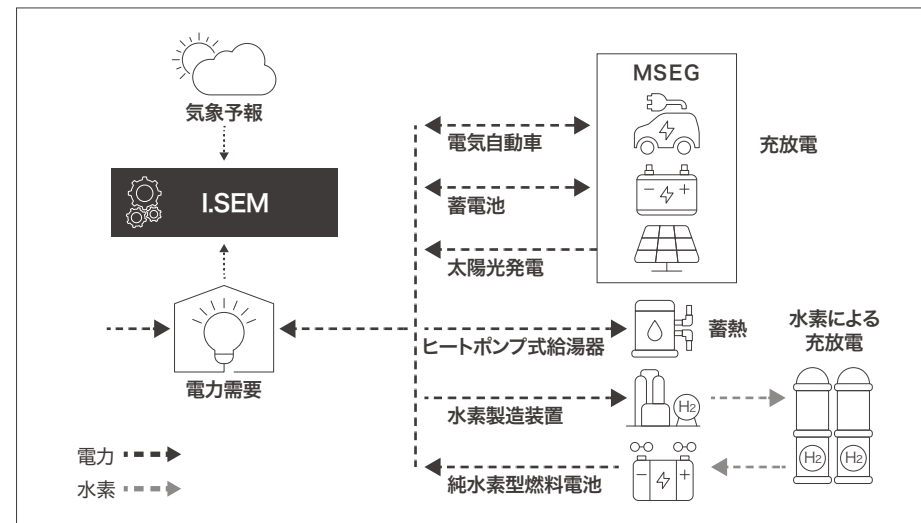
東陽・新砂における都市型脱炭素スマートエネルギーネットワーク

東陽・新砂エリアで、「都市型脱炭素スマートエネルギーネットワーク」を実施します。オフサイトの再エネを当社建物群に供給し、先進的なエネルギー・蓄電管理を行うことで、将来の再エネの高騰やGHG排出算定ルールの厳格化、再エネ調達の最大化、BCP対応などお客様の課題解決に貢献します。この計画は東京都が進める「マイクログリッド形成推進事業」に採択され、江東区とも連携をはかります。



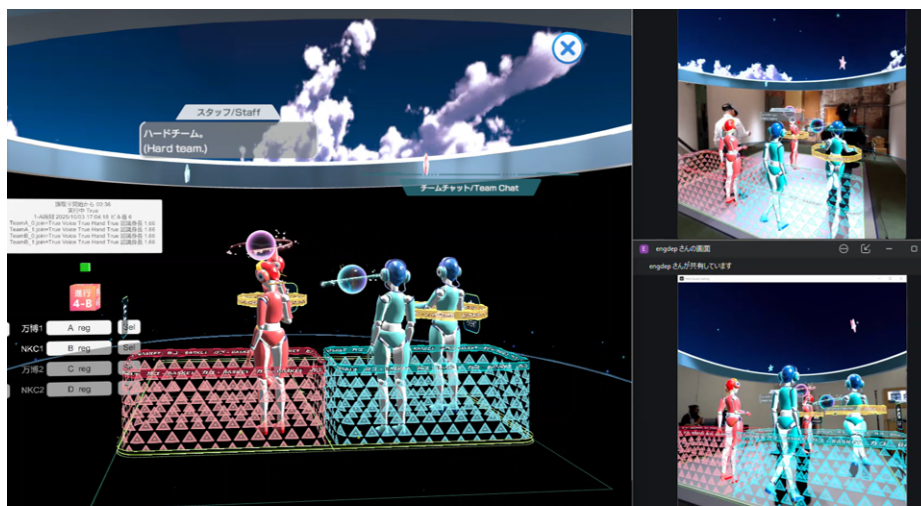
水素システムと連携したエネルギー管理システム

「パッシブタウン第5街区」において、エネルギー管理システム「I.SEM®」と直流統合電源「MSEG®」、水素システムを連携し導入しました。敷地内の太陽光発電による余剰電力を最大限活用したタイムシフト・シーズンシフト制御を同時に行い、再生可能エネルギーによる電力の年間自給率95%を実現します。



大阪・関西万博「未来社会ショーケース事業」コモングラウンド体験

2025年の大阪・関西万博において、コモングラウンド技術を用いた空間重量体験のコンテンツを展示しました。アバターを介して同じ仮想空間で交流できる環境を構築し、遠隔地の人々とのリアルタイムのコミュニケーションを実現しました。ロボットやAIエージェントと人が共存する未来社会の実現を目指して、活動を続けています。



レジリエンス向上ワンストップサポート

今後想定される大地震、火山噴火や降灰、短時間豪雨、災害激甚化などへの備えとして、レジリエンス強化への関心が高まっています。当社は、BCP・防災計画全般のアドバイザー、災害ごとの対策提案、要員の教育支援など、お客様の課題に最適なソリューションを、専門部署があらゆるフェーズで提供しています。

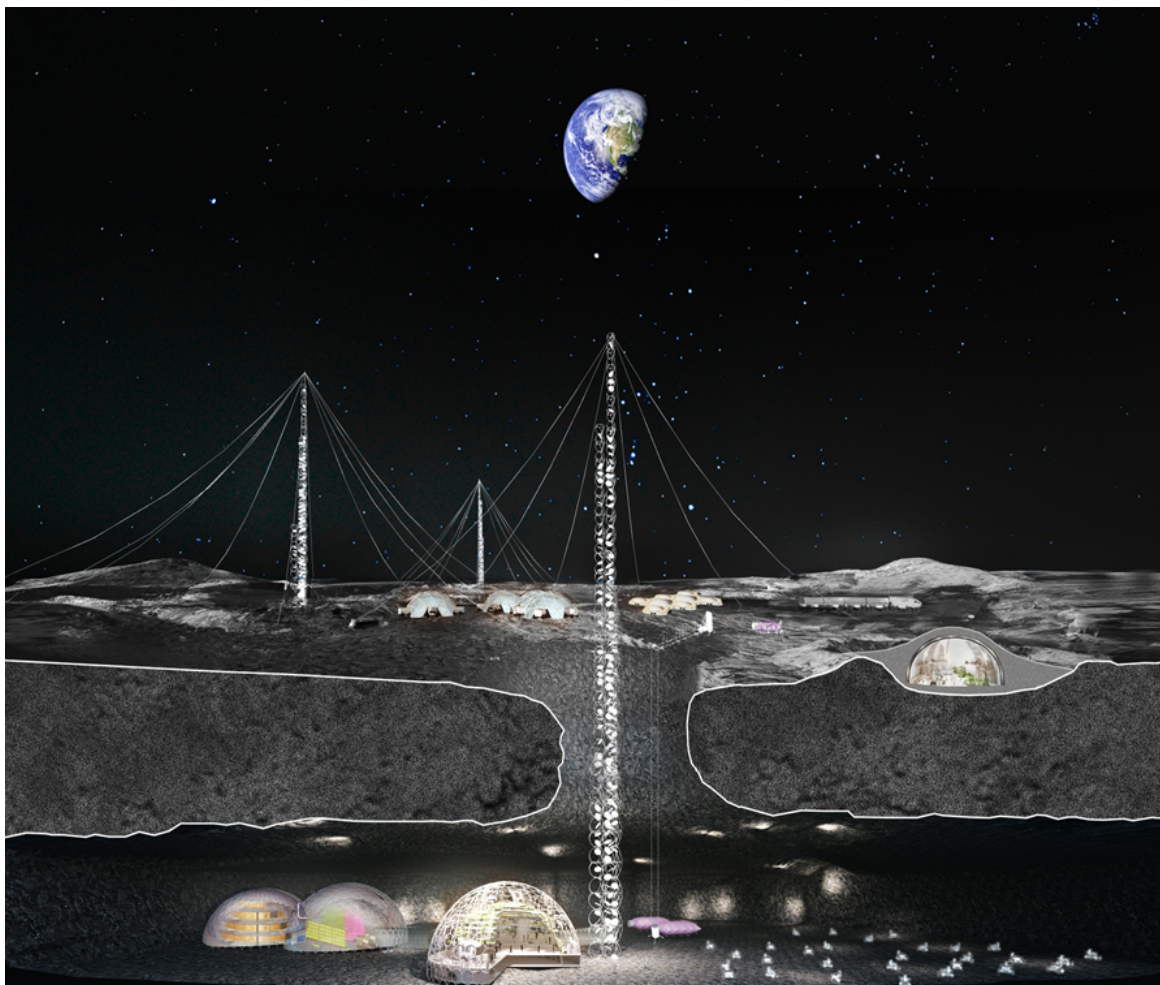
[詳細はこちら](#)



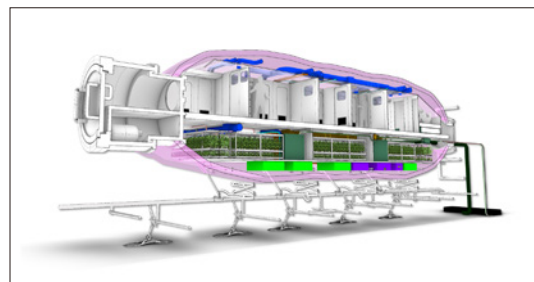
当社のレジリエンスに関するサポート

宇宙フロンティアへ

当社は、建物の設計・施工で培った技術を活かし、月面建築やそこでの生活の実現を目指した研究・開発を進めています。これは、現地資源の利用や水・空気・エネルギーの循環システムの構築を目指すもので、地球における資源循環やサーキュラーエコノミーの新たなモデル検証の好機になります。さらに、月面での取り組みは宇宙という過酷な環境を前提とするため、持続可能な仕組みや新たな発想を生み出す契機にもなります。こうした宇宙建築への取り組みは、地球上の都市や生活環境の進化をもたらし、人間と地球が互いに高め合う社会の実現に寄与すると考えています。 [詳細はこちら](#)



宇宙居住施設のランドデザイン



短期滞在モジュール

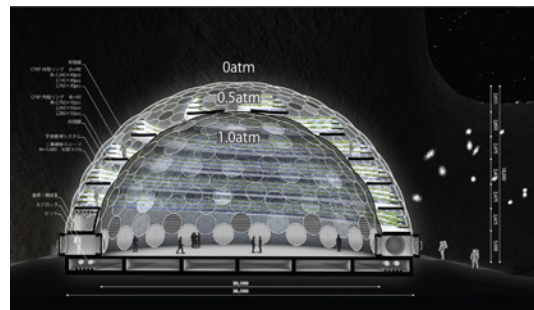
月に人が滞在するためのベースキャンプとして構築すべき最小の構造物の研究開発に参画しています。宇宙飛行士2人が最長2週間滞在できるオールインワン・モジュールと、4人の宇宙飛行士が最長半年間無補給で生活できる短期滞在モジュールの内部設計、設備設計、高密度緑化計画を担っています。

国交省スターダストプログラム：東京大学佐藤淳研究室、他との協業



長期滞在モジュール

宇宙飛行士だけでなく、研究者や旅行者が月を訪れる未来に向けて、40人規模の長期滞在モジュールを計画しています。基本ユニットは地球から運搬し、現地でモジュールを連結することで平面的な広がりを獲得し、ISS(国際宇宙ステーション)と同等以上のQOL(生活の質)レベルを目指します。



月面大スパン空間 ルナドーム

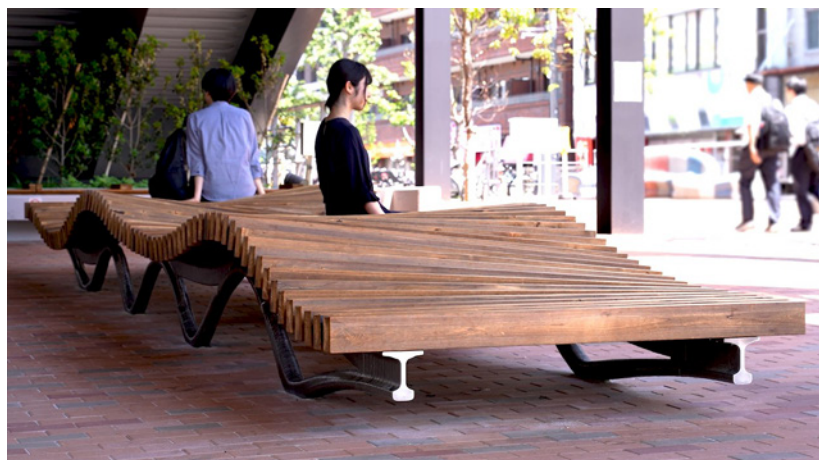
ルナドームは、当社のドーム建築技術を応用した直径30mの月面大スパン建築物です。

地球のように、気持ちの良い屋外空間(自然)が存在しない月面において、大人数が長期間、安全で快適に生活するためには、水平・垂直方向ともに大きな、広場のような内部空間が不可欠になります。高さ方向の広がりを獲得することで、食料生産や工場といった生産基盤の構築など、様々な事業促進が可能となります。また、立体的な生活空間によって、宇宙でのQOL向上を実現します。

持続可能な未来を技術開発で創造

循環型社会を実現する金属3Dプリンタによるアップサイクルベンチ「ルーベンチ」

西日本旅客鉄道株式会社などとの共創によって、鉄道の廃レールをアップサイクルした金属3Dプリンタ製ベンチ「ルーベンチ」を、JR大阪環状線弁天町駅に設置しました。アーク溶接を応用したWAAM方式の金属3Dプリンタによる積層造形で、国内最大級となるフレームを製作。材料の一部には廃レールを溶解・加工し、金属スクラップを用途や機能の異なる製品に循環させるアップサイクル技術を実現しました。この技術を通じて、お客様事業内での金属資源の再利用を促進し、循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。



ルーベンチ

[紹介動画](#)

アップサイクルの工程



供用していた廃レール

溶解し圧延

溶接ワイヤに再生

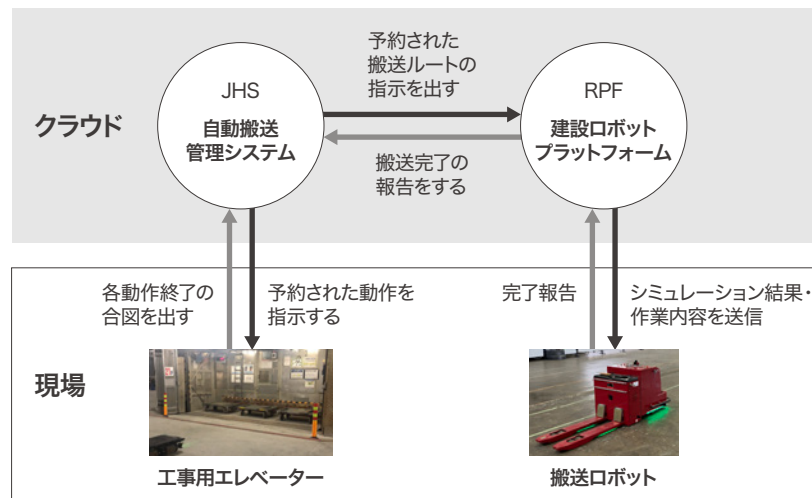
3Dプリンティング

建設現場の生産性を向上するBIM連動型「資機材自動搬送ロボット」

建設現場の資機材搬送を自動化する「資機材自動搬送ロボット」を、鹿島建設、アクティオと共同開発しました。このロボットは、BIMデータを活用した自動走行用地図と2D LiDAR、バーコードリーダーによって、工事用エレベータから所定のフロアまで資機材を自律搬送します。「建設ロボットプラットフォーム(RPF)」との連携により、人が少ない時間帯にも自動搬送が継続でき、建設現場の生産性向上に寄与します。

[詳細はこちら](#)

自動搬送の仕組み

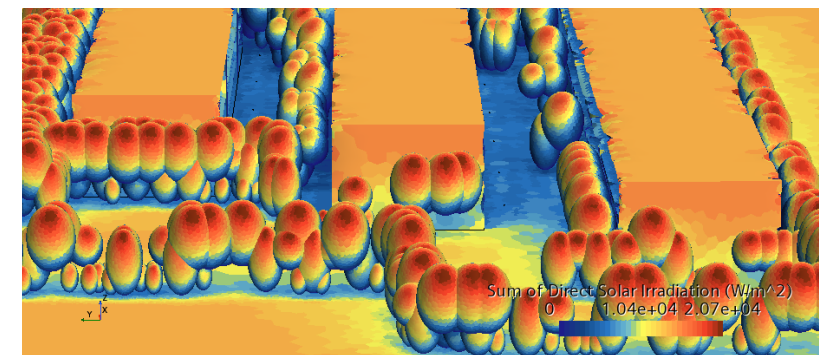


資機材自動搬送ロボットは、本体上部に2D LiDARおよびバーコードリーダーを搭載

緑地の快適性と環境性能を両立する樹木配置最適化シミュレーション技術「Optree®」

敷地内緑地の暑熱・風環境や景観を効率的にデザインするシミュレーション技術「Optree(オブツリー)」を開発しました。これにより、樹木の種類や配置パターンを、膨大な組み合わせの中から環境シミュレーションと最適化アルゴリズムを連動させて自動評価し、敷地形状やコストなどの制約条件も考慮しながら、理想的なランドスケープを高速で見つけ出すことができます。今後も、自然共生社会の実現に向けた技術開発を推進していきます。

[詳細はこちら](#)



Optreeの日射シミュレーション



Optreeの最適解に基づいて設計された緑地

国内主要グループ会社の 事業活動

まちのライフサイクルのあらゆるステージにおいて、
当社をはじめグループ各社は、お客様の多様なニーズにお応えします。



竹中土木

人と環境に優しいものづくりでサステナブル社会を実現する

竹中土木は、竹中グループの土木分野を担う会社として1941年の設立以来、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念を掲げ、ダム、トンネル、シールド、土地造成などの社会資本整備を通じ、人々の暮らしが豊かになるように努めてきました。また近年では、ますます激甚化する自然災害に対して、「強くしなやかな国土をつくり人々の暮らしを守る」という建設業の使命のもと、国土強靱化や防災・減災への対応、そして社会資本の長寿命化にも注力しています。

また、担い手不足が叫ばれる建設業界の中でDXを推進し、ICTを活用した生産性向上への取り組みも併せて行っています。

私たちは「人と地球の架け橋に」というコーポレートメッセージに込めた想いを全従業員が共有し、環境に配慮した持続可能な取り組みを推進します。そして自然環境を再生・創造する企業へと変革を進め、社会的責任を着実に遂行していきます。

左上：道路 圏央道江戸崎橋(下部工)
 右上：西目西ノ沢風力発電所
 左下：ARを使用して、トンネル工事の完成形を3Dモデルで投影して施工状況を確認する様子
 右下：1951年当社築造による防潮壁の遺構が、2025年竣工の物流施設の共用部に再活用されました



次世代の建物管理を実現する「集中管理センター」

アサヒファシリティズ

お客様の建物価値と安全を守る

アサヒファシリティズは、1969年の設立以来、全国のオフィス、病院、ホテル、商業施設など様々な建物において、お客様の最良のパートナーとして、建築及び設備の維持保全、警備、清掃などを提供するビルマネジメント事業、不動産の収益を向上させるプロパティマネジメント事業、損害保険を中心とした保険代理事業などをワンストップで提供しています。建物は、その機能を長期にわたって発揮してこそ優良な資産となります。私たちは、「建物管理のプロ」として、「技術力、対応力、提案力」を発揮し、更に、最先端のICTによる最適化を実践することで、建物管理に求められる高度化・多様化したニーズに応え、省エネルギーや廃棄物削減などの環境保全に取り組み、建物をお客様の優良な資産として見守り続けます。



小川町の森林資源活用に向けたフィールドワーク

TAKリビング

地球の恵の「木」をより良く活かす環境共創のパートナー

TAKリビングは、1949年の創立以来、東京木場に木工場を構える専門会社として、造作木工事、家具工事を通じて「最良の作品づくり」に取り組んできました。近年、脱炭素・資源循環・自然共生をはじめとする環境への配慮と、木材を取り入れた空間が人々のQOL(生活の質)向上に寄与することが実証されるなど、私たちが得意とする木質空間が再び注目を集めています。また、竹中グループの一員として、解体材や廃棄木材を活用したアップサイクル品の製作や、埼玉県の小川町をはじめとする荒川流域の森林資源活用に向けた新たな木材サプライチェーンの構築、プロダクト開発に積極的に取り組んでいます。地球の恵みである「木」と、70年以上にわたり培ってきた木工技術と伝統を活かし、リジェネラティブな社会の実現に貢献していきます。



(株)東京朝日ビルド本社

東京朝日ビルド

誇りあるものづくり

東京朝日ビルドは、1964年に当社が自社の躯体工事を施工する技能者養成のために設立した「竹中工務店建設技能工東北養成所」を起源とし、1972年に型枠・鉄筋工事の専門会社として設立されました。現在は型枠・鉄筋工事のみならず、躯体工事全般をワンストップで請け負う「プロの職人集団」に成長しています。今でも「技能の研鑽、技術者の育成」の想いを受け継ぎ、新入社員育成プログラム「ビルド学校」や全国の工業高校への「出前授業」、BIMやDXへの取り組みの加速など、「ものづくり」に対して常に挑戦・進化を続けています。これからも変わらず、時代の変化や社会の要求、技術の進歩に「誇り」をもって対応し、唯一無二の存在となることで、竹中グループの一員としてお客様、地域、そして社会に貢献していきます。

2025年大阪・関西万博 当社の取り組みを延べ80万人以上が体験



シースペーパー貼付



森のお茶会<春>



紙すきワークショップ

森になる建築

万博閉幕後は自然に還る休憩所

「森になる建築」は、当社が万博会場内に休憩所として提供した建築です。万博閉幕後は廃棄物にならず自然に還ることを目指し、生分解性樹脂の3Dプリント構造体に、植物の種入りと和紙「シースペーパー」で仕上げた環境配慮型の仮設建築物となっています。2020年11月の社内コンペで200件を超える応募案の中から最優秀賞に選定され、実現しました。会期中は延べ45万人を超える人々が訪れ、年代や国籍を問わず森に還るというコンセプトに共感する声や3Dプリンターでつくったことに驚く声が聞かれました。

また、外装材の「シースペーパー」をつくる紙すきワークショップや清和台の森で採れた野草をお茶にして味わう森のお茶会、トークイベント等を実施しました。

建築の終わりをデザインするという考え方と、その実現のための生分解性樹脂を構造体とした3Dプリント技術のハイブリッドが高く評価され、グッドデザイン賞など、国内外の賞を多数受賞しました。2026年春に兵庫県川西市の「清和台の森」へ移築しました。

[紹介動画](#)

<主な受賞内容>

グッドデザイン賞/日本空間デザイン 銅賞
JID賞 ブロンズ/DFA賞 シルバー
IDA賞 ゴールド

空からひろがる都市

未来の都市像を“鳥の目線”から楽しむ

当社が施工を手掛けた大阪ヘルスケアパビリオンの「ミライの都市」ゾーン内に、社内コンペで最優秀作品として選定された自社展示「空からひろがる都市」を常設展示しました。ミライの都市では、空中インフラの発達により人々の居場所やインフラが屋上や中高層部にも立体的に広がり、より自由で豊かな暮らしが実現すると考えました。その都市の様子を模型で表現し、透明なアクリルボックスに封入して積み上げることで展示を構成しています。

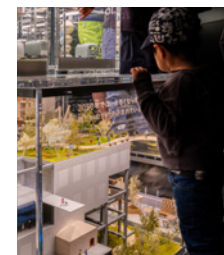
会期中は延べ25万人を超える人々が訪れ、子どもから大人まで展示の上に登ったり下をくぐったりしながら、空を飛んでいる鳥のような自由な視点で模型や映像を鑑賞している様子が見られました。

万博閉幕後、2026年2月より御堂ビルディング1階に移設され、来館者の皆様にお楽しみいただけます。

[☑️ コンセプトムービーはこちら](#)



展示の様子



木の国—日本

木造建築文化を大切にする竹中工務店

映画作家の河瀬直美氏がプロデューサーを務める、シグネチャーパビリオン「Dialogue Theater—いのちのあかし—」内の「森の集会所」で開催しました。

江戸後期の竹中遺構「正福寺」の原寸模型のほか、「竹中大工道具館」の木組キットに触れることができるコーナー、木造モダニズム「聴竹居」、現代の都市木造への取り組みなど、当社の“棟梁精神”を広く知っていただける展示となりました。特に来場者の注目を集めたのは、展示中央に据えられた青峰山正福寺の庇部分の組物を原寸で再現した模型です。普段は寺院の高い屋根の上にあるため小さく見える組木も間近で観察することでその圧倒的なスケールと職人による精密な木彫技術の美しさに多くの方が驚きの表情を見せていました。

9日間で延べ約10万人が来場し、木造建築文化への当社の想いと取り組みに実際に触れて感じていただく貴重な機会となりました。



展示全景(写真中央:「正福寺」組物実物大模型)

たてものめがね まちめがね展

建築の楽しさを幅広い年代に広く発信



たてもの・まちをつくる部屋

さまざまな空間や人々の活動・暮らしが詰まった100分の1サイズの一間ブロックを使い、来場者が「たてもの」を創造。一間ブロックには、間伐材や使えなくなった作業服、建設廃材などを活用しました。



等身大になる部屋

1間で切り取られた様々な日常に入り込み、大きさを体感。



スケールを横断する部屋

10分の1から1000分の1までスケールを横断的に体感。



エントランス

仮囲いの中に入っていくことで進行形の展示に来場者も参加。

たてものめがね まちめがね展

一宇宙から虫まで縮尺で考える建築の見方ー

2025年2月、グラングリーン大阪「VS.(ヴイエス)」において、縮尺:スケールを切り口とする展覧会を開催しました。2週間で2万6千人を超えるお客様に会場いただき、たてもの・まちづくりのおもしろさを体感いただきました。

縮尺という切り口で「たてもの、まち」への新たな視点を提供する試みや、「たてもの・まちをつくる部屋」で大人から子どもまで楽しんで参加していたことなどが評価され、「第44回ディスプレイ産業賞(2025)」において大賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。

[🔗](#) 開催中の様子

TAKENAKA AS AN ARTIST

この展覧会の企画にあたって、当社の中堅・若手社員を中心とした展示企画チームを結成しました。従業員自身が主体的につくり上げるプロセスを重視するとともに、当社と社会の新しいコミュニケーションのあり方を目指しました。

縮尺:スケール

小さな世界の中で見えていないモノ・コトに自由に想像力をはたかせ、実際の大きさの世界とつなぎ合わせる楽しさが建築・まちづくりにはあります。この『たてものめがね、まちめがね』を体感いただく展示内容としました。

大阪から各地の地域イベントへ

来場したお客様から「地域のイベントでもやりたい」とご相談をいただき、8月には徳島県の東部防災館おきのすインドアパーク、11月には北信越小児病棟ネットワークと連携した[🔗](#) イベントを開催しました。今後も各地で連携した取り組みを進めていきます。